

1

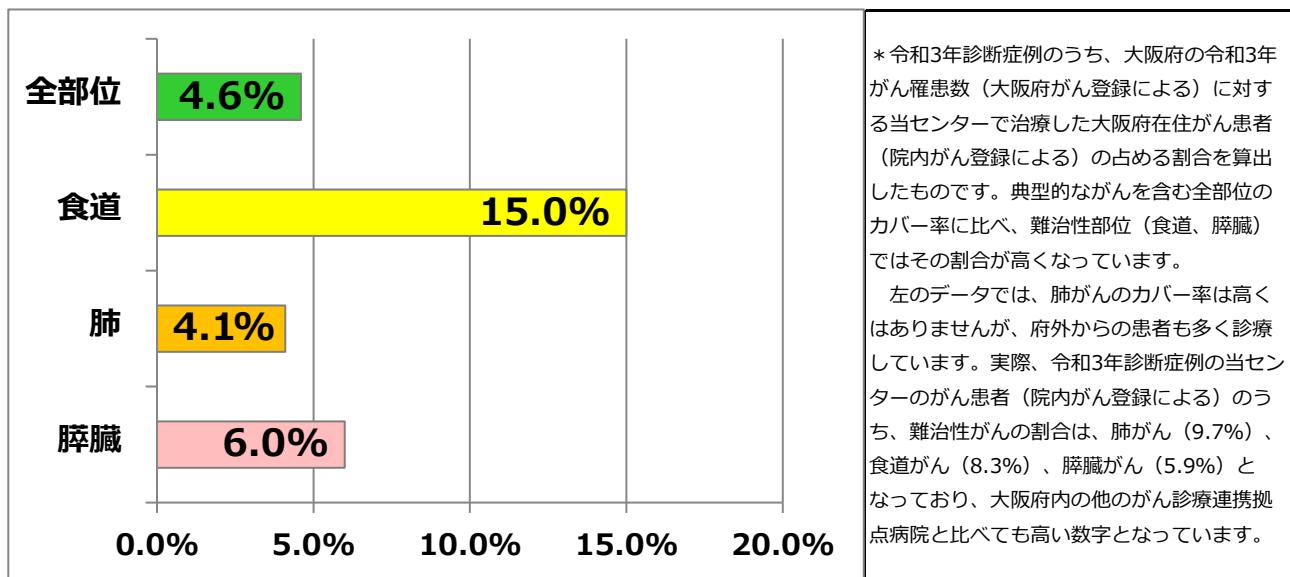
大阪府域における難治性がんのカバー率

指標の概要

胃がん・乳がん・大腸がんなどの典型的ながんについては、診療の均てん化が図られてきました。しかし、食道がん・肺がん・膵臓がんなどの難治性がんの診療については、高い専門性が必要であり、専門性の高い病院で診療するケースが多くなります。

本指標は、大阪府在住がん罹患者のうち当センターで治療を受けている割合を示すものです。症例数を多く積み重ねることで、がん治療に対し多くの知見、データが得られ、専門技術が向上します。この指標は、病院の持つ技術力の高さを示す指標となります。

大阪府域における難治性がんのカバー率



指標の定義、計算方法

大阪府のがん罹患患者数に対する当センターで治療した大阪府在住がん患者の占める割合をカバー率としています。

指標のレベル・ベンチマーク

難治性がんや、希少がんのカバー率は、地域のがん診療の事情に影響されますので、他の地域との比較には注意が必要ですが、当センターは、大阪府域において有数の実績を上げています。

病院の強みと指標における特徴

がん治療の高度専門病院として、難治性がん、希少がんに対する専門医がさらに経験を積むことで、技術を向上させております。

また、都道府県がん診療連携拠点病院として、地域のがん診療拠点病院との連携により、地域の医療機関では対応困難な難治性がん、希少がん患者の治療を行っています。

これらの取り組みを通じ、府域の難治性がん、希少がん患者に良質な高度専門医療を提供していきます。

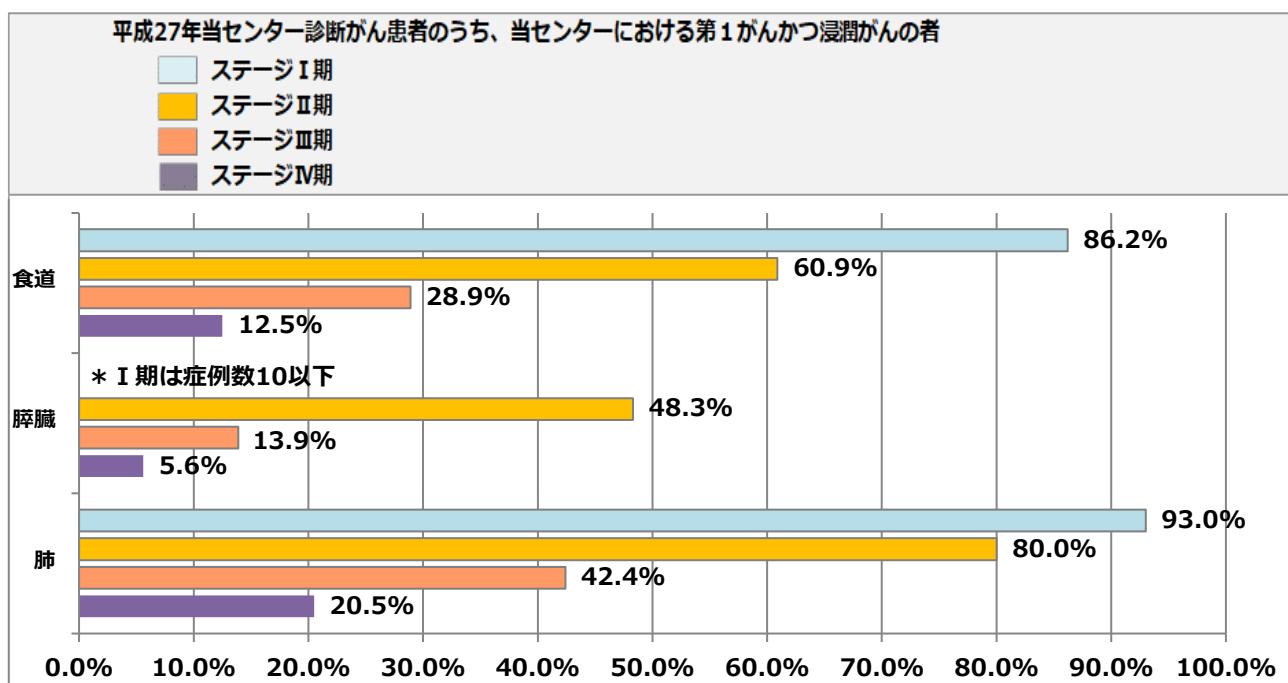
2

難治性がんのステージ別5年生存率

指標の概要

生存率とは、ある疾患の診断・治療後、一定期間後に生存している割合を示すものです。一定期間が5年であれば、5年生存率といいます。一般に、疾患の重症度が同等であれば、5年生存率が高いほどその疾患の治療成績が優秀と言えます。しかし、疾患の重症度はさまざまの因子に左右され、しかも患者の持つ個別因子による効果の違いもあり、単純比較はできません。さらに、5年生存率は予後把握率が低いと見かけ上良くなり、その解釈には慎重さも求められます。あくまでも1つのデータとして見る必要があります。

5年実測生存率



指標の定義、計算方法

ある疾患の診断・治療後、5年生存している確率

指標のレベル・ベンチマーク

当センターの値は全国トップレベルですが、5年生存率については、がん患者の病状、合併症により大きく影響され、単純な比較はできません。

病院の強みと指標における特徴

当センターでは、手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた集学的治療に取り組んでおり、難治性がん、希少がんについても、豊富なデータからがんの症状に合った最適な医療を提供するよう努めています。

また、安全で患者の負担の少ない内視鏡治療や、患部にピンポイントに照射可能な I M R T（強度変調放射線治療）、術前、術後に免疫化学療法を実施するなど、効果的で患者負担の少ない新たな治療法を取り入れ、さらなる向上に努めます。

3

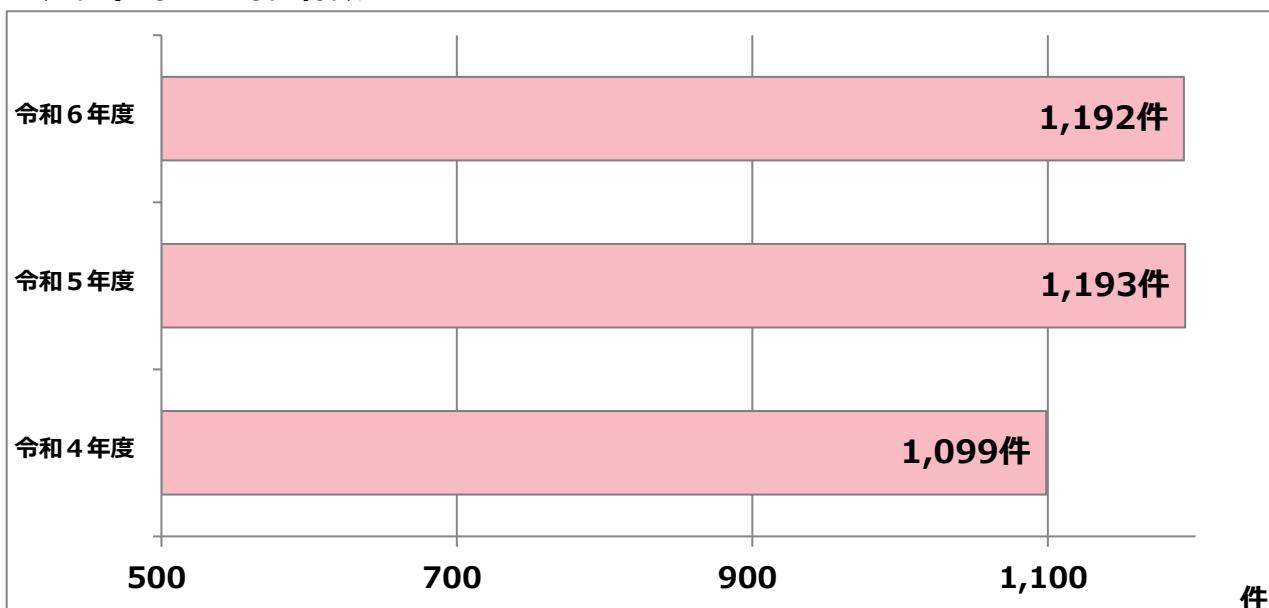
セカンドオピニオン件数

指標の概要

セカンドオピニオンとは、ある疾患で医療機関にかかっている方が、自分の受けている治療が適切か、他の選択肢はないのか、他の医療機関に対し意見を求めることです。特に、がん治療は、手術、放射線治療、化学療法の組合せから最適な医療を提供する集学的治療により、治療法の選択も多岐に渡ります。

当センターは、難治性がんや希少がんを含む多岐にわたるがん種の治療症例を多く持つとともに、研究所、がん対策センターとの三位一体となった運営体制により、新たな診療法の開発にも努めており、高度な技術に対する信頼から多くの患者からセカンドオピニオンを求められています。

セカンドオピニオン件数



指標の定義、計算方法

セカンドオピニオン料を算定した件数

指標のレベル・ベンチマーク

セカンドオピニオンの実績を公表している病院は少なく、単純な比較は難しいですが、がん診療連携拠点病院の平成30年の現況報告によるセカンドオピニオン件数ランキングでは、5番目に多い施設です。令和6年度も引き続き、1,100件を超える件数を維持しており、ランキング4位との差がひろがることなく、当センターの実績はますます高いレベルにあると考えられます。

病院の強みと指標における特徴

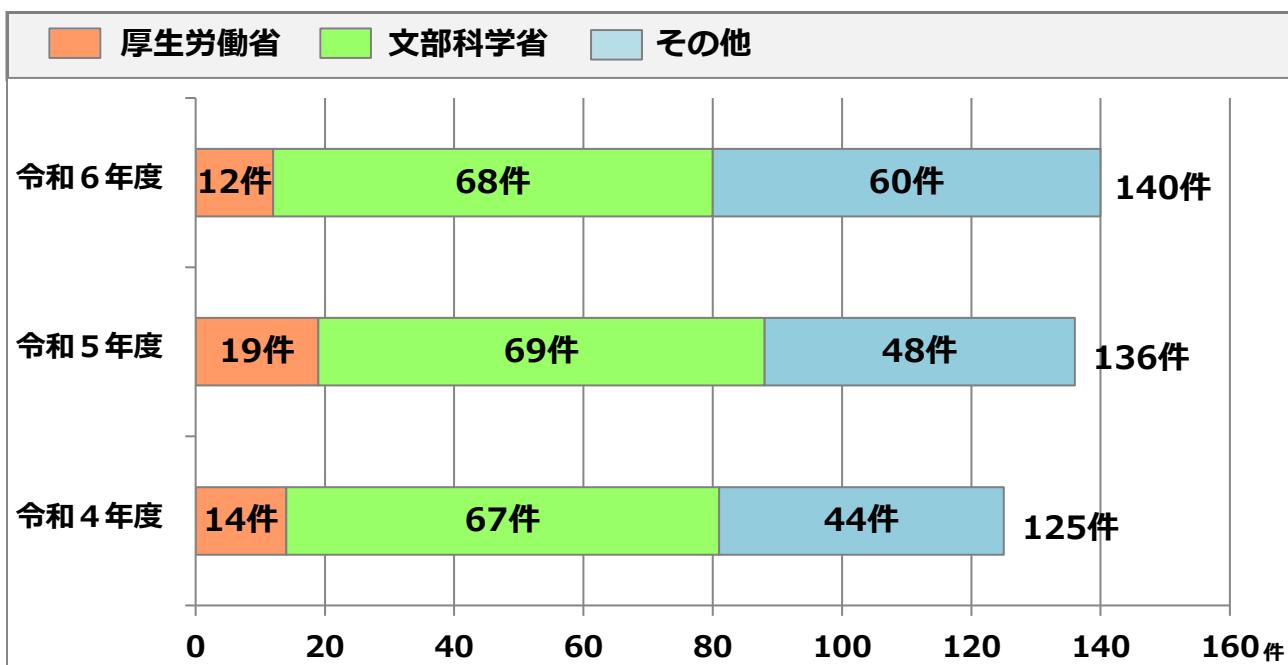
都道府県がん診療連携拠点病院としてがん診療の均てん化を進め、がん診療についても地域の医療機関でも一定水準の治療が可能となりました。しかし、がん治療は日進月歩であり、患者は常に最新・最適な医療を求めます。セカンドオピニオンはがん患者とその家族が信頼する医療機関のバロメーターとも言えます。近年では海外からの依頼が増加してきています。今後も大阪国際がんセンターが、がんの分野において日本のがん医療をリードし、国内外へ示すことで、セカンドオピニオンも高いレベルで推移するものと考えています。

4

競争的研究費による研究件数

指標の概要

新しい治療や診断法の研究には、一定の資金を要します。国（厚生労働省、文部科学省・AMED）や、民間財団・企業等では、こうした研究を支援するための資金を提供しています。しかし資金には限りがあり、費用対効果により成果が求められます。このため、成果の出せる優秀な研究に資金を集中させる必要があり、審査などにより、対象となる研究を決めることとなります。このような資金を「競争的研究費」といい、競争的研究費獲得件数が多いことは、優秀な研究がなされている証とも言えます。



指標の定義、計算方法

競争的研究費獲得件数：厚生労働科学研究費獲得件数、文部科学研究費獲得件数、民間助成金等の獲得件数

指標のレベル・ベンチマーク

文部科学省の資金のうち、令和6年度採択の研究助成費については、当センター30件（5年度35件、4年度33件）に対し、埼玉県立がんセンター12件（5年度9件、4年度13件）、千葉県がんセンター27件（5年度32件、4年度29件）、神奈川県立がんセンター19件（5年度19件、4年度16件）が対象となっています。

（出典：文部科学省 科学研究助成費 研究者が所属する研究機関別採択件数・配分額一覧）

病院の強みと指標における特徴

当センターにおいては、がん組織の培養技術（CTOS・iCC）や、がんのゲノム解析など、がん診療に対する高い技術を有しており、厚生労働省、文部科学省やAMEDの競争的研究費の獲得や、企業など民間研究機関との共同研究による資金を獲得しております。

今後も患者に負担の少ない効果的な治療法や、新たな診断法のなどの開発を行い、がん診療をリードしていきたいと考えています。

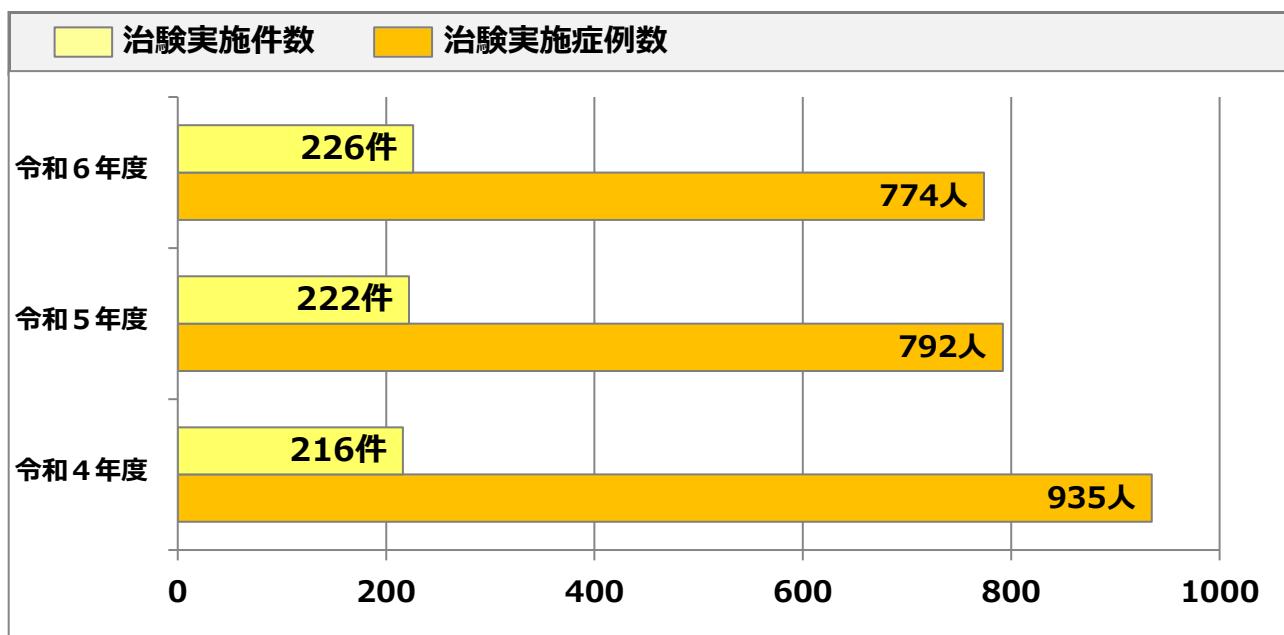
5

治験実施件数

指標の概要

治験とは厚生労働省から新しく医薬品として承認を得るために、患者の協力を得て行われる臨床試験のことです。治験を行う病院は、「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」という規則に定められた下記要件を満たす病院だけが選ばれます。

- ①医療設備が充分に整っていること
- ②責任を持って治験を実施する医師、看護師、薬剤師等がそろっていること
- ③治験の内容を審査する委員会を利用できること



指標の定義、計算方法

治験実施件数：治験の種類数

治験実施症例数：治験への参加患者数

指標のレベル・ベンチマーク

令和7年4月現在、大阪府内の治験活性化を目的に、創設された地域治験ネットワーク『治験ネットおおさか』（大阪府内の大学病院、国立病院、府立病院を含む16医療機関の治験ネットワーク）に参加している。

病院の強みと指標における特徴

当センターは、大阪府のがん診療連携拠点病院および特定機能病院として、重要な基本方針のひとつに「先進医療の開発と実践」を掲げています。そこで企業主導および医師主導の開発治験を推進しています。またC R Cなどの体制のレベルアップや職員育成などにも日々取り組んでおります。

当センターでは、がんの治療法をはじめとした医療のさらなる進歩に向け、企業等との共同研究のほか、治験にも積極的に取り組んでいます。